

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002170		
法人名	有限会社 岸本総合企画		
事業所名	グループホームアミティ豊中		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市蛸池南町3丁目8-1		
自己評価作成日	令和7年1月10日	評価結果市町村受理日	令和7年2月21日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和7年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を念頭に地域での生活の中で、様々な活動に参加し、地域の方々との交流を深め、様々な季節行事を通じて、楽しみや四季を感じて頂けるように努めています。また、ご本人の出来る力を少しでも維持していけるように、生活の中で、その方の役割や意欲に繋がる声掛けをしながら、介護職としての心構えを大切にケアを行っています。医療面では、日々の状態を観察しながら、内服薬の減量や調整なども行えるように、主治医と密に連絡を取り、定期的な往診の他に休日や夜間も対応して頂いています。精神的な症状が増悪した場合などは家族様と相談し、メンタルクリニックへの受診や往診に繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄り駅から徒歩圏内にある2ユニットのホームは、今年度設立20周年を迎えました。落ち着いた住宅街にすっかり馴染み、近隣の住民と挨拶を交わし合う関係を築いています。隣の小学校からは子ども達の元気な声、向かいの遊歩道からは鳥のさえずりを聞くことができます。法人理念に「ゆったり、豊かに楽しい生活を」とあるように、楽しみ事の支援に力を入れています。日々の散歩や季節のイベントはもちろん、回想法を取り入れた職員と共に楽しむ昔の話も好評です。個々の家族に向けて発行している、月1回の「アミティ通信」には、そんなゆったりした日常の写真を掲載しています。写真は家族に日頃の様子を知らせるとともに、職員には笑顔の場面を増やそうという試みに繋がるツールにもなっています。更に今後、地域との交流が増えることが期待できます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室横と各フロアにアミティの理念を掲示している。スタッフ全員が内容を理解し、ユニット会議では、理念をもとに、個人の入居者様にとって、その人らしさを話し合ったり、気づきを共有しケアにつなげている。また、新人入職時にもオリエンテーション時に説明している。	法人でアミティ豊中・アミティ3号館・アミティ5号館共有の理念を制定しています。玄関・職員室・各ユニットのリビングに掲示し、周知しています。「その人らしさを大切に 住み慣れた街で仲良く ゆったり、豊かに楽しい生活を」を目指し、理念を基にした「職員の心がまえ」を職員と共に作り、実践できるよう取り組んでいます。ユニット会議で話をし、入職時研修に挙げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接した公園に職員や入居者様と近所の方々との団欒の場があり、挨拶等を交わしている。 地域交流では、小学校、地域の運動会や盆踊り、敬老会等に参加したり、御神輿参りの際は全員で外に出て、間近で躍動感ある動きを見て、大変喜ばれていた。保育園や阪大生との交流も再開していきたいと思っている。	自治会に加入しています。自治会長には運営推進会議に参加してもらい、地域情報を得ています。今年度は小学校で行われる敬老会に参加し、園児の歌や、太鼓の演奏を楽しみました。夏祭りには利用者の着付けで浴衣を着て盆踊りを楽しみます。介護相談員や地域ボランティアの受け入れは徐々に再開していく予定です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話相談に対しても、おおむね状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得していただいた上で、他のサービス等の紹介をしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度地域の方や家族様、地域包括の職員と共に会議を開催している。行事の報告や勉強会、事故報告などを行い、地域の活動予定や包括の活動、家族様のご意見など頂戴している。昨年は避難訓練の様子などを見学してもらい、労いや意見をもらいました。ウエスの寄付は今まで通り行ってもらっている。	2か月に1回、開催しています利用者・家族・自治会長・地域包括支援センター職員などが参加しています。利用者代表には男性に声をかけ、役割として参加することが良い刺激になっています。避難訓練を見学してもらって意見を求めたり、グループホームとはどんな施設か、資料を用いて説明したり、マンネリにならないよう工夫しています。外部評価についても報告しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出等で市の窓口を尋ねたり、分からない事は電話でも相談できる関係作りに力を入れている。そのほか社会福祉協議会からの介護相談員の来訪も今は中止しているが、電話にて近況報告などを行っている。	地方包括支援センターは散歩コースの近くにあり、所用があるときは利用者と一緒に立ち寄っています。管理者は市の職員とできるだけ対面で話すことを心掛け、電話で済ませず市役所まで足を運んでいます。顔見知りの関係を築き、相互に協力し合っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、研修を通して、知識を高めてもらい、基本的には一切行わないよう、すべての職員に対し、徹底している。 電子ロック錠は、横に暗証番号を掲示しているので、3階の入居者様は、リビング、居室を自由に昇降される方も居られる。スピーチロックに対しても、その都度話し合ったり、職員間で注意喚起することもある。入居者一人一人が笑って安心して過ごせるよう心掛けている。	身体拘束適正化委員会があり、3ヵ月に1回会議を開いています。研修は年2回実施しています。4月から虐待防止委員会を発足し、研修を行いました。スピーチロックを意識し、不適切な発言がないよう努めています。	研修の記録を整備することが望まれます。年2回の研修を、日時・参加者を明記し、資料を併せてファイルすると分かりやすいです。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して、フロア会議や管理者とスタッフの個人や集団での話し合いの場をもつ中で、不満や意見を聞き、常に職員の心のケアに努めるよう心掛けている。人と人の関わりの中で性格上合う、合わないがあり、時間やタイミングによっても変わってくる。そのことを踏まえ、スタッフ同士で助け合い、交代し合える様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などでも制度について話し合う機会や説明を行い、入居説明の際などにも家族様に制度の事を助言する場合もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、図表や実際の請求書などを用いて、わかりやすく、理解いただけるように説明している。家族様からの疑問に関しては、納得頂ける様に真摯に対応できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の訪問は中止しているが、通常、定期的な来所により、入居者様からの相談事については、相談員さんから施設側へのフィードバックできる体制を取っていた。入居者の方とゆっくりと話せる時間を設けて、世間話などから色々な意見を聞き出したりもしている。 家族様に対しては、面会にこられた際に話を聞いたり、連絡事項の際など電話でも常に相談できる対応を取らせて頂いている。玄関には、公的な苦情受付機関や介護相談員の来所日をお知らせし、相談、苦情解決の第三者窓口を紹介している。 その他、ホーム内での相談(苦情)受付担当者や相談(苦情)解決責任者を掲示している。	利用者・家族の代表の運営推進会議への参加があります。職員は日々利用者の会話から要望を聴き「苦情・要望・意見・期待受付簿」に記録し、対応しています。散歩がしたい、新聞が読みたい、寿司が食べたい、などの要望に対処した事例があります。家族からの細かな意見・要望も聴き取り、対応までを分かりやすく記録しています。意見・要望が出しやすい関係を築いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議など、リーダーはスタッフより意見を集め、管理者と意見交換ができる時間を設けている。また、必要に応じ、代表者も含め適宜、会議を開き、意見交換できるようにしている。 その他、代表者、管理者はスタッフと個別に話し合う時間を設けるように努めている。	月1回、各ユニットごとにユニット会議を行っています。職員の年齢幅は広く、2名の外国人スタッフもいる中、お互い信頼し合い、意見・提案が出しやすい職場です。職員の意見から勤務時間帯を変更し、働きやすく改善できた事例があります。年末には恒例の忘年会を催し、フランクに意見を出し合う機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ個人の職務に関し、管理者やリーダーと話し合う機会を持ち、個人のスキルや現場に与える影響力など評価し、モチベーションの向上に努めている。また、研修への参加希望等にも耳を傾けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	研修で学んだことを現場に生かされるよう に、フロア会議の場で話し合う時間を設 け、次に繋げられる様に取り組んでいる。話 し合う機会がフロア会議のみになっている 為、参加出来なかった職員の意見があまり 聞き取れていない。 外部の研修も現在は難しいが、今後、希望 があれば随時検討していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	ホームの職員が同業者との交流は出来て いないと思われる。事業所での課題や問題 に関しては法人内の管理者やケアマネ同士 での話し合い程度で留まっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してしばらくは不安が多く、混乱されて いることも少なくない。そのことを踏まえ、家 族様より生活歴、趣味趣向を聞き、コミュニ ケーションの時間を多く持ち、各スタッフを信 頼し、安心して過ごしていただけるよう努め ている。また、家族様の面会などの協力も 得ながら、安心できる居場所作りをと考えて いる。記録やスタッフ間での情報の共有を しっかりと行うことで、より一層利用者理解 を深められる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	申込時や面談の際に、おおむね状況説明を して下さるが、ご入居されて、落ち着き安心 されると、何度か来訪されるうちに信頼関係 が築け、辛かった日々を打ち明けられ る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	電話相談時におおむね状況を聞かせてい ただき、当ホームの限界をお伝えし、納得し ていただいた上で、他のサービスの紹介を している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、人に頼られたり、役割を持ってもらう事の重要さを考え、感謝の言葉を言える様に心掛けている。女性の入居者様に味見をして頂いたり、食材を盛り付けて頂いたり、リビングの掃除を手伝ってもらったりしている。男性の方にも出来る家事はお願いしている。身の上話などを、何気に相談したり、一緒に考えたりして良好な人間関係を築けられるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時には、職員との意見交換が出来る時間を設けており、現在の状況や生活暦、本氏からの言動等の疑問を相談し今後のケアの方針を話し合うようにしている。面会等不十分な場合は電話などで話し、意見や要望を聞かせてもらう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の来訪は多く、自宅にてお祝いをしたり、面会には感染対策を行いながら、出来る限り会える様に支援をしている。家族様にも協力を得ながら、墓参りや旅行に行かれる方もおられる。	コロナ禍後、家族との面会は電話連絡の上、談話室で行っています。人数や時間の制限はなく、広い談話室で家族に誕生日祝いをしてもらったり、道具持参でヘアカットをしてもらったり、気兼ねのない時間を過ごしています。家族と墓参りや外食に行く利用者もいます。家族以外の面会は解禁にはなっていませんが、年賀状を書くなどの支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通して、ユニット内でお祝い事や協力、共存していく中で、馴染みの関係を作り、共に作業したり、お互いに声を掛けあっている。 日常生活の場においても、入居者様同士困っておられたら助け合う関係が出来ているので、人間関係を考慮し、席を考え、入居者様同士親睦を図れるよう心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護度の関係や入院治療等の理由で退所された方に対しても、電話連絡やお手紙を送り、本人様の容態や、家族様の悩みを尋ねるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや暮らし方を尋ね、それに沿って支援できるよう心がけている。本人様から聴取が困難な場合は、家族様より生活歴や趣味等を聞き、本人様に楽しんで頂ける様に心がけている。介護する立場では、自分がされたら嬉しいと思う介護、して欲しくない介護について話し合える様に話し合いや助言を行っている。利用者との会話等の中で出た新たな情報はアセスメントシートに記入したり、フロア会議で職員とも情報の共有をしています。	簡易式アセスメントのシートで「現在・過去の生活状況」や「趣味」「特技」「友人地域との関係」の記入欄があり、細かに聞き取りをしています。生活歴などから意向の把握に努めています。また「苦情・要望・意見・期待受付簿」があり、利用者の要望を記録し対応策を検討しています。編み物が趣味だった利用者に、編み物を勧めることを介護計画に挙げた事例があります。	管理者・職員は利用者との会話を楽しみ、その中から思いや意向の把握に努めています。様子やしぐさからも感じています。それを共有するしくみがあれば、さらに個別の支援につながります。回想法で得られた情報も記録して共有してはいかがですか？
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際、ケアマネからのアセスメントの他に、所定の用紙を家族様に記入して頂き、その情報を元に本人様とコミュニケーションを取り、情報を得ていくようにしている。 また、入居後、家族様からの情報をアセスメントシートに記載し、ユニットの職員が出来る限り同じ情報を共有できる様、連絡ノートなども活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り事項の中で特変や日々の生活状況を申し送るようにしてもらっている。利用者にはそれぞれ体操やレク、散歩、昼寝等、毎日の習慣として行う以外に、利用者個々にその日の状態によって違った一日を過ぎて頂いている。又、一人、ひとりが日々過されていく中でも、有する力が変化して行く事を頭に入れ、何気ない動作の中にもいつもと違う何かを感じ取れるように努めています。その日の出来る事、出来ない事を判断し、状態に応じて対応も変えられる様に心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時、家族様に希望、要望を聞くだけでなく、現場職員の意見を反映する為に、担当者会議やフロアーミーティングにより話し合う場を設け、個々に合わせたプランを心掛けている。また、日々の中での気づきや前向きな意見に対してはプランに活用できないか考慮する事もある。医療面での課題に関しても、専門職の医師や看護師に相談し、プランに反映する。	介護計画は3カ月に1回見直しをしています。家族・看護師・介護職員などと、内科医・歯科医の意見・指示を踏まえた計画を作成しています。計画表はケアチェック表の個別の表紙に挟みこみ、短期目標のサービス内容が実施されていることが確認できます。モニタリングは3カ月に1回行っています。	3カ月に1回見直しをしていますが、新たな目標の設定につながらず、同じ目標の継続になっています。長期目標の期間を長くするなど、その期間に達成できる目標設定が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表はケアプランがすぐに見れるようにしており、それを基に毎回確認しながら、スタッフの気づきや発見、入居者様の言動等を記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等、家族様の状況や意向により、連携を図りながら職員や管理者が付き添い出かけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理者やスタッフと共に、選挙の場や敬老の集い(地域の小学校)に参加したり、地域の季節行事(盆踊りや展示会等)にも自治会長や地域の方から声を掛けていただき参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、定期検診を月に1回と異常時に報告にて、往診か病院への受診、救急など適切な指示を行ってもらっている。病状が変わられた場合に関しても、本人様、家族様に相談し、安心できるように紹介支援も行ってもらっている。ターミナルケアも視野に入れ、夜間や急変時にすぐ往診して頂ける医師に主治医になって頂いている。 歯科の往診も月に2度行っており、不具合等で緊急の際も対応してもらっている。	提携の主治医は定期的な受診の他、休日や夜間も対応できる医療連携を整え、利用者・家族の安心を得ています。ホームの看護師は健康管理を行っています。かかりつけ医の選択は自由ですが利用者は提携の主治医をかかりつけ医に選んでいます。月2回、歯科訪問もあります。他院受診も希望があれば可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の疑問や相談などを、看護師の視点から医療的に話してもらい、かかりつけ医との連携にも繋げている。受診などは基本、管理者やスタッフで行っているが、看護師からも今後の方向性や対応方法などの意見をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連絡を密にとり、症状が悪化しないように早期発見、早期対応を心掛けており、入院された場合は、入院された医療機関とも連携し、ドクターや看護師から状態の予後を聞き早期退院に努めている。ターミナルケアも視野に入れ、夜間や急変時にすぐ往診して頂ける医師に主治医になって頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でグループホームでの生活の継続について、良い面、弱い面など説明させて頂いています。死期が近づき、いざという際に家族様も不安にならない様に、時期を考慮しながら、終末期の方向性を検討し、主治医や看護師から助言をいただき、本人様の意向になるべく添えるように家族様と一緒に話し合いを行っている。	契約時に「重度化や看取りに関する指針」に沿って説明を行い、意向を確認しています。状況変化に伴い、利用者にとっての最善を考え、主治医・看護師・職員・家族等で話し合いを重ねています。最期までその人らしく安心して暮らせるように家族や医療関係者等と連携を図りながらチームで支援しています。この1年間、1名の看取りを行いました。家族面会も可能で、最後のお別れもできました。定期的なターミナル研修も実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にフロア会議等で緊急時の対応を再確認したり、緊急時対応マニュアルを必読するよう声掛けしている。不安なスタッフには、個々に管理者やリーダーからも声掛けを行ってもらったり、指示系統を確認しておいてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアル、緊急連絡網を作成し、災害時対応出来る様に体制を整えている。 年2回避難訓練を実施している。 また、火災や地震等の有事の際には駆けつけて頂ける地域の方々と職員から成る「アミティグループ地域防災支援組織」を結成している。	年2回、防災避難訓練を消防署指導のもと実施し、訓練後の振り返りも行っています。BCP計画書に基づいた災害マニュアル、災害時連絡体制を構築しています。災害備蓄品は事務所と各ユニットの安全な場所に保管し、管理者が管理しています。防災備蓄品はリスト化し、フロア会議で点検しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいやプライバシーについては会議や委員会、研修の課題として取り上げている。日頃のケアの際も、耳障りな表現や不適切な声掛け等を互いに注意し合える関係作りをしている。	定期的に接遇やプライバシー等の研修を行い、意識の向上に努めています。職員間で言葉づかいや対応を確認し、接遇等における適切な対応に心がけています。不適切な対応があった場合は管理者がヒアリングを行い、気づきの意識化が図れるように指導しています。日頃から管理者・職員間で話し合える職場環境にあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望や要望を理解力に合わせた表現方法で説明し、納得して頂く。職員には本人の自己決定を引き出せるように声掛けの重要性を説明している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念にもあるように「その人らしさを大切に」を念頭に置き、日々の業務を優先するのではなく、まずは利用者の安心を優先し、笑顔が見られる対応をしている。業務に関してはスタッフ間で声を掛け合い、何を優先するか決め、協力してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の更衣の際は本人様に出来るだけ服を選んでいただいている。女性入居者様には必要に応じて、化粧水を習慣で行って頂いたり、行事としてもお化粧をして頂く機会も設けている。 理美容に関しても、基本的にはホームへ来訪し行なっていたりしているが、家族様が行うケースもみられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルの台拭き、お盆拭き、出来る方にはおやつ時の洗い物を手伝って頂いている。多少の調理では盛り付けや味見なども楽しみながら行ってもらっている。箸や茶碗、湯飲みに関しては、使い慣れたものを持ってきていただき使用していただいている。希望があれば、外食やホームでお好み焼き、たこ焼きを作り食していただいている。おはぎ作りや流しそうめん、バーベキュー、出前の寿司、地域の和菓子など年間を通じて食を楽しむイベントを行っている。個々に応じて、食事の形態、刻みやムース食、トロミなどを行い、安全で摂取しやすい様にして召し上がってもらっている。	主食の白飯と汁物は職員が調理し、収穫した野菜(オクラ、なす、胡瓜)は味噌汁の具材などになり食卓に上ります。主菜・副菜はクックチル食を温めて提供しています。四季折々の食の楽しみを工夫し、おせち料理や七草がゆ、ちらし寿司や彼岸のおはぎ等の行事食や、季節の果物も旬の美味しさを味わっています。出前食の寿司は人気メニューの一つです。利用者は盛り付けや皿洗い等、それぞれができることを手伝っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量をケアチェック表に記録し、全職員が情報を得られるようにしている。 水分に関して、嚥下困難な方に対しては、トロミをつけたり、ゼリーにするなど摂取しやすいように対応している。食事に関しても、咀嚼の状態に合わせ、刻み等その方の食べやすい形態にしている。栄養状態が低下している時は、家族様にも協力して頂き、嗜好品を確認したり、持参頂いたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時の歯磨き、口腔ケア・声掛けを実施している。又、歯磨きが不十分な方には、再度磨き直しをさせて頂き、ご自身で無理な方にはこちらで介助させて頂いている。義歯使用の方には、毎晩、ポリドントを使用し洗浄している。協力歯科医院の往診を行っており、口腔内の衛生管理や適宜、対応も行ってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人、ひとりの排泄リズムを把握するため、チェック表を作成し、パターンをつかむよう心掛けたり、サインを読み取って、トイレ誘導に繋げている。日中は出来る限りトイレでの排泄習慣を心がけてもらえる様に、必要に応じて職員2人介助でもトイレに座ってもらえる様に介助を行っている。	一人ひとりの排泄チェック表を活用し、利用者のサインを見逃さずにトイレでの自然な排泄を支援しています。利用者の身体状況に応じた介助方法を工夫し、トイレでの排泄習慣が身につくように取り組んでいます。尿パット等の衛生用品は個々の皮膚の状態や排泄量に応じて対応しています。トイレは各ユニットに2か所あります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、朝食時の牛乳や水分補給、ホットパック、歩行練習等にて体を動かして頂いている。トイレに着座して頂き腹部マッサージを行う等支援させていただいている。 入居者様によっては、下剤の使用や食事の際お茶をゼリー状にしたものを食べて頂き、便秘の予防に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回は確保し、入居者様の気分やその日の体調で無理強いせず、曜日や時間を変更し、極力本人様の希望に沿えるようにしている。 菖蒲湯やゆず湯など季節感を感じて頂ける様にしている。ADLの低下などで湯舟がまたげなくなっても、介助方法を考え、出来る限り浴槽に入り、温もってもらえる様に配慮している。	入浴は週2回ですが、曜日や時間帯は柔軟に対応しています。入浴を拒む利用者へも無理強いせずに、誘導のタイミングを工夫したり日時変更等で根気よく取り組んだことで、入浴できるようになった事例があります。1対1の入浴で昔話を楽しそうに話したというエピソードもあります。入浴後は個人用の保湿乳液で皮膚の乾燥を予防しています。シャンプー等も頭皮にあった個人用を使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人、ひとりの生活習慣は違うので、帰室しテレビをゆっくりと見て過ごされる方もいれば、昼間にソファで休んでおられる方もいる。 個々の体力や状態によっては、臥床時間を設けて、負担の掛かりにくい様に対応している。空調や電灯にもそれぞれ好みがあるので、それぞれに合わせた環境へして休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状、服薬に関して申し送りノートに記し、薬を組む者、確認する者、服薬支援する者、その薬が本人様のであるか確認する者、という風に薬に関する確認は二者確認しており、入居者様全員の内服に関しては、内服一覧表と、写真入で作用、副作用を確認できるようファイルを作って、職員全員が閲覧している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯たたみ、盛り付け、テーブル拭き、フロアの掃除等ご自分の出来ることを無理の無い程度に行ってもらい、ありがとうの言葉を必ず入れて、次も気持ちよく行って頂けるように、取り組んでいる。一人ひとりを見ながら、挨拶や会話など小さなことの積み重ね等からも喜びや次のステップに繋げられることを大事にしている。 食の楽しみは季節の行事の他に、誕生日や手作りで楽しんでもらう事も良く行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋上への外気浴や洗濯物干し、本人様の希望に沿って、散歩、近所の公園には小まめに出かけている。面会時に家族様と車いすで散歩に行ってもらったり、近場へドライブや墓参りなどに出掛ける方もおられる。	感染予防対策に配慮して日常的な外出を工夫しています。近隣の公園を散歩し、四季折々の花の季節を楽しんでいます。散歩道の草花や木々の香りも楽しみの一つです。見晴らしの良い屋上では職員と洗濯物を干したり、モノレールや飛行機を眺めたりして気分転換を図っています。家族との個別外出(ドライブ、外食、墓参り等)も支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談し、安心のために特定の方は現金を所持されている。 おやつの買い物に付き添ってもらう事はあ るが、個人的な使用には至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望が強く出ている場合などに家族様に協力して頂く場合に掛けることがある。それ以外では、家族様に連絡している際に、電話口で本人と変わって、話をさせていただくことは多々ある。携帯電話を持っている方もいるので、自分で家族にされている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、エレベーター前やリビングに装飾をして季節感を出している。各居室にはそれぞれの名前を明記し、トイレも場所が分かりやすいように表示している。リビングにはソファを設置しているので、食事以外はソファで過ごされる方もおられる。館内は、カーテンを2重にする等不快な光を極力なくし、各居室、リビングの照明に関しても段階的に調節できるようにになっている。	エレベーター前やリビング兼食堂には季節感のある作品が飾られ、明るくゆったりとした生活環境にあります。体操やレクリエーション等を楽しめるスペースを確保し、思い思いに寛げるソファを配置しています。照明は段階的に調節でき、適切な明るさを保ち、季節毎の適切な湿度温度と換気に配慮しています。1階談話室はカラオケもできるように設え、利用者の楽しみの場になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所に、ソファを置き、お一人や気の合う者同士でくつろいでいただいている。 食事の席で、気の合う方同士塗り絵を楽しまれたり、新聞や雑誌を読まれたりされる。又、別のソファでもお話やテレビを楽しまれている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用しておられた馴染みのある家具や寝具等を、入居時に出来る限り持って来てもらい、使用して頂いている。入居者様の中には家族様、ご友人から頂いた花や写真等を飾っておられたり、テレビを設置し見ている方もおられる。 安全性と生活スタイルに合わせ、臨機応変に対応している。	大きく表示した表札の周りには飾り付けをして、分かりやすさを工夫しています。居室はベッド、寝具、クローゼット、エアコン、洗面台、二重カーテンを備えています。馴染みのあるタンスや椅子、テレビや愛着のある物の持ち込みができます。歌謡曲の好きな利用者はお気に入りの曲をカセットで聞いています。それぞれのスタイルで居心地良く過ごせる部屋になっています。テラスのガラス扉からは校庭で活動する児童の様子を見ることが出来ます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、手作りの表札を作り、トイレに関しても手作りで案内や札を作り、わかりやすいよう配慮している。動線にはなるべく物を置かず、十分なスペースを確保している。必要な方の居室内、廊下等入居者様が不安に思われるところには手すりを設置し安全な環境づくりを心掛けている。		